



げん だ ゆう し
玄田 有史氏

東京大学社会科学研究所助教授。1964年生まれ。東京大学経済学部卒。経済学博士。専攻は、労働経済学。今年、東京大学社会科学研究所が立ち上げた「希望学」のプロジェクトリーダー。主な著書に、サントリー学芸賞を受賞した『仕事のなかの曖昧な不安』（中央公論新社）、『ニート～フリーターでもなく失業者でもなく』（共編著・幻冬舎）、『14歳からの仕事道』（理論社）、『働く過剰』（NTT出版）などがある。

ネルからなかなか抜け出せず、いた時期と重なります。そして、ここ1～2年は、書籍以外にもいろいろな場面で『希望』の2文字を目にする機会が増えました。では、日本社会は希望あふれる未来へと向かっているのでしょうか？ 残念ながら私はそうは思いません。地球環境や少子高齢化の問題、あるいは年金問題……。私たちは、未来に希望が見出せない社会に直面しているといっても過言ではない。その象徴的な存在がニートといえるかもしれません」

「ニートは、働く気がない、働く能力が劣っている若者といった言い方をしますが、実際に調べてみると、そんなことはない。潜在的に仕事への意欲はあっても、働くこと、生きることへの希望が希薄な若者がほとんどです。ニートは若者の中でも、ごくわずかな割合の人たちの問題に過ぎないのに、必要以上に彼らへの関心が集まっているのはなぜでしょうか？ それは、働いてい

就いておらず、学校にも行かず、就職のための訓練もしていない」若者を指している。厚生労働省の『2005年版労働経済白書』によると、2004年の15～34歳のニート人口は64万人。本誌1月号の「考現学」で取り上げたので、まだ記憶に新しい方もいるだろう。

る人たちの多くが、知らず知らずのうちに自分の中にあるニートのな部分を感じ取っているからではないでしょうか？ そのニートの部分とは、未来に対して希望が持ちにくいということですよ」

「希望」と「やりがい」の関係

希望が持ちにくい社会。そんな現状にあつて、どうやって「希望を持てばいいの？」と言われても返答に困るかもしれない。そもそも疑問として、本当に希望を持てばいいことがあるのだろうか？ この疑問には誰も明快な回答が出せない。誰にも分からないはずだ。

「分からないなりに、希望とは何か、希望と社会とはどんな関係にあるのかを考えたというのが『希望学』という新しい研究です。必要なのは、希望を抱かせるための即効薬でなく、希望とは何か、から問い直すことだと考えたのです。手始めとして、今年5月に全国の20代から40代の約9000人に希望に関するアンケート調査を実施しました。小学6年生や中学3年生の頃に、なりた希望の仕事が

あったかどうかをたずねたところ、小学6年生のときになりたい仕事があつた人は全体の約70パーセント。その中で、小学6年生の頃の希望の仕事に就くことができた人はたつたの8パーセントでした。しかし一方で、過去に希望する職業を持つていた人のほうが、希望がなかった人よりも、結果的に『やりがい』のある仕事に就く確率は、はつきり高くなつていたのです」

「希望学」とは？

- ①社会において個人が形成する「希望」とはそもそも何なのか？
- ②社会が個人の持つ「希望」にどのような影響を及ぼすか？
- ③個人の形成する「希望」が社会状況をどのように規定するのか？

人はどのようにして希望を持ち、そして失うのか。希望は社会とどのような関わりを持つのか。希望学は、社会のなかでの希望の意味とありかについて、一人ひとりが探求するための科学的プロジェクトです。

※東京大学社会科学研究所 希望学プロジェクトチームHP「希望学」始まりますより作成



希望学

いきいきと人生に立ち向かうために

近年、社会のあり方を問うアプローチとして「希望」というキーワードが使われることも少なくない。本のタイトルやサブタイトルに「希望」という文字を見かける機会も増えた。なぜ、今「希望」なのか？ 先行き不透明なこの時代だからこそ、「希望」が注目されるのだろうか。今回は、今年「希望学」というプロジェクトを立ち上げた東京大学社会科学研究所助教授の玄田有史氏に「希望」の本質をお聞きし、いきいきと人生に立ち向かうために「希望」を持つことの意義を考えてみたい。

「希望」を持ちにくい現代社会

普段何気なく使っている「希望」という2文字。「希望あふれる」「希望を抱いて」「夢と希望」等々、明るい未来をイメージさせる言葉だ。「希望のない人生なんて」といった使い方をされることも多い。特に

最近では、いろんな場面で「希望」という言葉を見かける機会が増えているようだが……。

「インターネットの検索サービスで『希望』を含むタイトル、サブタイトルの本を探すと、実に1000冊を超える書籍がリストアップされます。これは1998年くらいから顕著に見られる傾向です。日本が不況のどん底にあり、真つ暗なトン

「希望」にまつわる格言



ヘレン・ケラー

「希望は人を成功に導く信仰である。希望がなければ、何事も成就するものではない」



カミュ (仏・作家)

「希望とは一般に信じられていた事とは反対で、あきらめにも等しいものである。そして、生きることはあきらめないことである」



魯迅 (中国・文学者)

「絶望が虚妄であるのは、まさに希望と同じだ」

※佐藤由紀 (東京大学大学院学際情報学府) 作成

子どもの頃に希望した職業を実現した人は、仕事に対しても大きなやりがいを感じていることは容易に想像できる。例えば、プロ野球選手。メジャーリーグで活躍中のゴジラ松井やイチローなどは、まさにその最右翼といつてもいいだろう。また、プロサッカー選手のキング・カズ (三浦知良) は、今年11月、期限付きとはいえオーストラリアのプロチームに移籍を果たした。いつでも希望を失わずにサッカーに取り

組んできたからこそ、38歳という年齢にかかわらず海外でプレイするチャンスが得られたといつても過言ではない。 「でも、多くの人は、希望を実現しようとする過程で、自分の希望通りには進まないという現実を直面します。挫折であり、失望です。つまり希望とは、具体的に特定化されるほど、出合える確率は下がるものなのです」

挫折と失望を克服するうえで新たな希望が芽生える

例えば、小さい頃にプロ野球選手という希望を持った少年の大半が、成長していく過程で、プロの技術レベルの高さ、体力、精神力の強さを知り、ついには「自分はプロにはなれない……」と失望を味わう。つまり希望とは、失望もしくは絶

望を必然的に伴っているといえよう。 「希望と絶望は表裏一体といつてもいいと思います。その観点でいうと、希望とは、一度挫折や失望を経験して初めて手にできるものと考えられます。『自分には希望がない』と言っている人は、絶望したくないから希望をもつことができない。あるいは希望を持つことに消極的な人ではないでしょうか。 私は、希望が失望に変わった時、自分と社会との関係をどう軌道修正し、新しい希望につなげるかどうかが、その後の生きがいづくりを左右する重要なポイントだと思います。希望が失望に変わる中で、ある人は『もう二度と希望なんて抱くものか』と考えて、ある人は『ダメなら、新しい希望を持つ』と考える。軌道修正ができる人と、できない人。その両者の差は何でしょうか？ この点はまだ研究中ですが、一つには他者との出会いが重要なポイントになると考えています。自分一人で軌道修正することは難しくても、誰かの助言やアドバイス、ウンチクのある一言で軌道修正のヒントやきっかけになることもあるのです。 私の場合、尊敬する恩師にいつも言われていたのが『ケチなやつは、いい学者になれない』という言葉。

こうすれば自分に得だ、損だと計算ばかりしているのはケチな人間。何が自分にとって本当で得で、何が損かは簡単にわかるはずはない。だから、選択に迷ったら、一見損に思えることでも、気になるならやってみよう……。そこから新しい自分の可能性が開けてきたような気がします」

失望を怖れずに希望を持ってチャレンジし続ける

「存じのように希望には、簡単に実現できる希望と、なかなか実現するのが難しい希望があります。私に関心を持っているのは、叶いそうもないのに、それに向かって夢中で行動していく希望の力です。仮に実現はしなかったとしても、行動することによって、社会と自分の距離を見つめ直して、自分の進むべき道が見えてくるのです」

でも、世の中には「別に希望なんてない」という人も少なくない。実際に、希望のない人生は、本当に不幸なのだろうか。 「個人的には、希望がないからといって、その人が不幸だとは思いません。

せん。でも、希望を持つことにどんな意味があるかを、他人に伝えられるような人間になることはとても重要なことだと思います。ニートの人たちに限らず、若者の中には、『自分のやりたいことが見つからない』という人が結構います。私たちが取り巻く社会には『やりたいことがない人生はつまらない』といったプレッシャーがあり、自分らしさ、個性が生かせない生き方は意味がないといった風潮もあります。では、自分がやりたいこと、やるべきことに出会うにはどうすればいいでしょうか？ その回答の一つは、『失望を怖れずに希望を持ってチャレンジし続けること』ではないでしょうか。チャレンジし続けることで、その人が最初は考えつきもしなかった、やりたいこと、やるべきことが見えてくるかもしれません。そしてそんなことを子供たち、若者たちに伝えられる人間になることが大切だと思います」

これまで述べてきたように、希望は実現することだけに意味があるのではなく、むしろ失望するなかにこそ価値があるといえる。挫折や失望に遭遇した時に、それを跳ね返す「タフさ」は人生には絶対必要だ。そこで、今「希望を持っています

もっと知りたい方は……

『働く過剰〜大人のための若者読本』 「働くことに疲弊する若者」と「働けない自分に絶望する若者」。理解不能な存在、単なる社会的弱者として排除することなく、大人たちが個人として、社会として彼(彼女)らの就業と自立のためにできることは何か。「仕事に希望は必要か」など、一種の希望論といえる内容になっている。



玄田有史 著 NTT出版 2,415円

『希望—行動する人々』 ビューリッツァー賞作家がアメリカの再生を願って完成させた、逆境を乗り越えた市井の人々へのインタビュー集。信念を持ち希望を失わずに逆境を乗り越えた、教師、政治家、組合活動家、ミュージシャンなど有名無名の24人。彼らの言葉を読んでいると、読後にかすかな希望がわいてくる。



スタッズ・ターケル 著 井上一馬・訳 文春文庫 660円